

會報



145 號

日本山岳會

昭和廿四年度會員總會

四月二十四日午後 於交通博物館

次 第

- 一、開會の辭 堀田理事
- 一、廿三年度事業報告及廿四年度運営方針 松方理事長
- 一、本會組織を財團法人に變更する件
- 一、廿三年度會計報告 濱野理事
- 一、本年度事業計画と實施方針 谷口理事
- 一、本年度豫算審議
- 一、役員の件
- 一、支部報告 支部出席者
- 一、圖書室落成報告 藤島理事
- 一、圖書室落成報告 藤島理事
- 一、ウエツター・ホルン登攀史 松方三郎氏
- 一、ウエツター・ホルン北壁登攀 田口二郎氏
- 一、映 画 中央氣象台提供
- 一、霜の花

閉會の辭

藤井理事

各議事は異議なく原案が可決されたが、豫算則ち會費に關しては出席された地方支部代表の發言及び文書(石川・富山・名古屋・信濃)に依る意見答申にかんがみ更に理事會に於て案を練ることゝしその決定は理事會に一任されることゝなつた。以下議決事項の内容を略記する。出席會員(一四六名)

本會の組織を

財團法人に改める件

本會は虎ノ門圖書室開設當時既に財團法人となる意向を有ち、その寄附行為の案が作られ會報第三號に掲載されて居る。而しその當時財團となるには財産の額が小さすぎ當局の許可を得ることが出来ず、社團法人として今日に至つたのである。此際圖書室の落成を見て財團たるに充分の財産を持つに至つた本會が年來の企願たる財團法人への變格を決定したのは當然と云はなくてはならない。

本年度行事豫定と實施方針

行事豫定の大綱は殆ど昨年度の踏襲で、新に設けられた部門は特別委員會があるに過ぎない。特別委員會は將來の海外遠征に資する準備委員會であつて、現下登山界の實情に即し極めて伸縮性、弾力性ある活動方針を採りつゝ成長して行くであらう。昨年度と殆ど同

様な一年分の行事計画を此處に羅列することはさき、實施の都度早目に之を豫告することゝした。本年は行事内容よりもむしろ實施方針に於て昨年度と聊か異なる方法をとることゝなつた。即ち本館内に左の五部門を置き、各部門毎にその擔當理事が實行の一切の責を負ひ一々理事會に之を諮ることゝを省略し行事實施に獨働性を有た

☆ 第3回山祭り ☆

(ウエストン祭り)

6月1日(金) 夜 出發

6月11日(土) 松本—上高地(泊)

午後ウエストン師レリーフの前にて
記念式・講演・キャンプファイヤー

6月12日(日) 午前中解放

(詳細は本會事務所宛御問合せのこと)

尙12日から次の山行を豫定しています
から出来るだけ御参加下さい

- (1) 上高地—徳本峠越
- (2) 上高地—大瀧山越
- (3) 岳川—穂高—洞澤
- (4) 岳川—穂高—槍—中房

申込先 日本山岳會内 原 全教宛

締切日 5月末日

(申込者は各コースを必ず明記されし)

會計 村山雅美
圖書室管理・會員親睦 藤島眞男 小原勝郎 原全教
支部 谷口現吉
渉外 入澤文明
体協アマチュア委員 中屋健次
体協醫事委員 辰沼廣吉
体協用具委員 原 全教
事業部 責任者 濱野正男
第一部 (國民体育大會) 濱野
正男 今井友之助
第二部 (實踐指導) 林 和夫

すことゝした。然し本會自体の有機性を高めて行く爲、各部門責任理事の連絡會は従来の理事會よりも更に頻繁に之を行ふことゝした

各部門の内容とその分擔者

理事長 松方三郎

總務部 責任者 谷口現吉
庶務・記録・會報 原 全教 福井正吉 外山義夫 中尾正武 大塚浩一

千谷壯之助 辰沼廣吉 高橋照
山崎安治 大塚博美 新村止一
海野治良 箕口治信 川森時子
小野 幸 清水一郎 石原憲治
(催物) 神谷 恭 山下一夫
村井米子 坂倉登喜子 村松巖
第三部 (山小舎山案内)
神山 勉 渡邊公平
(山岳保護)
第四部 (學生部) 藤井連平
村山雅美 酒井捷之助

藍田 務 舟橋明賢
出版部 責任者 関根吉郎
山岳 田邊主計 島田 巽
山 関根吉郎 望月達夫
山 垣内政彦 入澤文明
山日記 河内邦介 林 和夫
神山 勉 崎田 照 柏田威
村田 顯 金坂一郎

資料研究部 責任者 今村正二
資料圖書 田邊主計
研究 今村正二 酒井捷之助
村木庸益 山田二郎 越智英
雄 大塚博美 根井 繁

特別委員會 責任者 堀田彌一
望月達夫 山田二郎
村木庸益

本年度新役員
本會は早晩財團法人に變格されなければならぬので、それ迄の間本年度より新に本會の業務を執行される新役員は一應全部本會委員として御活動願ふことゝした。實質的には従来の理事と全く同一であるが暫定措置としてかくの如き方法をとつた次第である。その氏名等は略式ながら業務分擔欄により御承知ありたい。

昭和廿三年度收支報告書
昭和廿四年四月十日現在

前期繰越 八、一七六、〇〇
廿二年度 會費 八、八八〇、〇〇

支那經由

會費 一、三七五、〇〇
東京支部 四六〇、〇〇
廿三年度 入會金 一七、四五〇、〇〇
會費 二六、四〇〇、〇〇
支那經由 會費 一二、一三五、〇〇
東京都山岳會 七、九五〇、〇〇
會員章 六、九六〇、〇〇
團體登錄料 四〇〇、〇〇

◆本年度會費◆

本年度會費・入會金は左の如く決定された。

通常會費(東京支部在籍者)三、〇〇
但し支部費は別に二、〇〇

〃 (地方) 〃 一、〇〇

入會金(含會員章代金) 三、〇〇

團體會費(東京) 三、〇〇

〃 (地方) 一、〇〇

團體會員個人登録手数料 二、〇〇

團體入會金 一〇〇、〇〇

雜收入 七二一、〇〇

會報廣告料 八、五〇〇、〇〇

借入金 五二、二五二、〇〇

合計 一五一、六五九、〇〇

支 出

印刷費 二八、七一七、〇〇

通信費 三三、一八三、〇〇

事務費 七、五〇二、〇〇

出版會費 一、二〇〇、〇〇

體育協會 負担金 一一、四〇〇、〇〇

人件費 一二、一二〇、〇〇

會費 一八、〇一六、〇〇

展覽會費 二、〇〇〇、〇〇

故小島鳥水氏御佛前 二、〇〇〇、〇〇

會旗 八、八〇〇、〇〇

出版會費 四、五〇〇、〇〇

會員章 一二、九〇〇、〇〇

都體育會負擔金 二〇〇、〇〇

雜費 九、一二一、〇〇

合計 一五一、六五九、〇〇

本年度豫算

總會終了後緊急理事會を開き本年度會費を別掲の如く定め、之に従ひ會費完納者壹千名(東京地方各五〇〇名)入會者參百名を想定して次の豫算を編成した。御覽の如く圖書室維持の金額と人件費の大半を東京在住會員が負担することになった。

収入の部

會費 二〇〇、〇〇〇、〇〇

入會金 九〇、〇〇〇、〇〇

合計 二九〇、〇〇〇、〇〇

支出の部

會報印刷費 五五、〇〇〇、〇〇

會報發送費 五〇、〇〇〇、〇〇

圖書室維持費 二五、〇〇〇、〇〇

人件費 九〇、〇〇〇、〇〇

事務費 八、〇〇〇、〇〇

通信費 一〇、〇〇〇、〇〇

借入金返済 五二、〇〇〇、〇〇

引當金 二九〇、〇〇〇、〇〇

支部報告

(總會に於ける口頭報告事項)

關西支部 篠田軍治氏

雪崩對策研究會 三月

幻燈會 五月初旬

本年總會(於六甲山)五月中旬

新生高校講習

(大阪岳連と協) 七月

兵庫支部が近く設立を豫想されて居る。

會室は日本山岳會関西圖書室と云ふ性格を有つ如くにした。

越後支部 藤島 玄氏

廿三年總會は八海山で行い、下の會場(社務所)は七〇名、山行は四〇名

一、三縣交歓飯豐登山、山形、新潟でやり参加者七〇名、本年もう一回で飯豐は打切とするが、將來は山を變えて長野群馬なども連絡して三縣四縣で試みたい。

臨時總會は津川在日光寺で催した。

一、高頭仁兵衛翁像設置、日本山岳會の發起者郷土の偉人として、翁が幼時初登山した名峰彌彦の頂上へ建設事業進行中。

一、年報の形で越後山岳第一第二を發刊したが本年第三號發刊の準備中

一、支部會員數二二〇名、會費完納

山梨支部 今井友之助氏

一、加盟團體 一九團體

一、集會は月二回各團體代表參加

一、南アルプスの施設開發に全力を傾注

一、専門委員會四つ設立、遭難對策、登山施設等

▽「山岳」豫約募集 △

昨年度は河出書房の發刊でありましたが、本年度より會自身が發刊しなくてはならないこととなつたので、運轉資金を全く持たない本會としては購讀豫約者以外に之を分つことが出来ない實情であります。左記の金額を添えて早目に御豫約下さい。尙「山岳」内容に關しては次號廣告の如く決定して居ります。

本年度分(二冊)參百元

申込締切 七月末日

本年計画

一、新制高校の指導

一、山岳會指導者の養成

一、山小屋、指導標、道路の修繕

改善及以上の現況調査をして

登山の參考資料とする

一、縣體育祭 九月に團體參加、日本山岳會計畫參加、登山相談所設置

一、支部山行 五月五日夜叉神峠を櫛形山に變更、日歸りで行う

東京支部 村井米子氏

大体は本部と共同で、昨年は

一、山岳展覽會 丸善で開催

一、九州國體參加

一、十一月富士登山

大体本部の高度的に對し、低いものをも計画する心算であるが、今迄は低調、本年は理事長に藤井運平氏就任多様な行事豫定を決定した。

小島鳥水記念展覽會

及第一〇八回小集會

前號豫報の通り、圖書室の落成を期して開催された小島鳥水記念展覽會は三月廿六日から卅一日迄三百名の來會を迎えた。故人肖像を正面に、左右には愛蔵の風景画、寫眞など、さらに著書、愛蔵本、手澤品、文房具執筆雜誌など無數の陳列があつた。

開會第一日には、午後六時から體育會本館に於て故人を偲ぶ小集會を催し講演を行なつた。

まづ「山岳會創立迄の小島君との關係」の題で武田さんが、例の驚異的な記憶と輕妙な話ぶりで淡々と日本山岳會側面史を語られた

次に横さんは「次の時代から仰ぐ小島さんの業績」と題し日本山岳會の先驅者としての小島さんの存在價值と次の時代に及ぼした影響などを語られた。以上は「山岳記念號」に發表の豫定である。

聴衆約六〇名に及び、終了後、圖書室に集まつて歡談に時を過した。なほ小島家からは、左の諸品

を本會へ寄贈された中村阿伯筆白
樺、故茨木画伯筆大宮街道、博物
の友六冊、雷鳥刺繍一對など、い
づれも貴重な品ばかりで新聞書室
を飾ることになった。

昭和廿四年度東京都山岳會事業計画

月別	山行	集会	研究シリーズ(小集会)
五月	谷川岳 鷺巣山 本栖湖	ウエストン 報告会 六月廿三日 (六時)	山の音楽の夕 五月十九日(午後六時)
六月	上高地(ウエストン祭) 一徳本峠・大瀧 山班・三徳高班 四徳高・松尾走 多摩・丘陵	高山植物 武田博士	
七月	尾瀬行 光沢牧	夏山研究会 雲の話 藤原咲平博士	
八月	白馬岳	夏山講習会	
九月	秋川 雲取山 奥多摩山 岳會後援	山村の家 石原憲治博士	
十月	ハケ岳 三峠(都選選考)	地形の話 辻村太郎博士	
十一月	富士山(國体) 高麗峠	天文の話 關口鯉吉博士	
十二月	スキー講習会 (初心者向)	冬の氣象 久米庸孝氏	
一月	スキー行 (志賀高原)	凍傷の話 長沼廣吉氏	
二月	春山行(未定)	旅日記 田部重治	
三月		山村の食物 村井米子	
四月			

備考

一、六月中夏山相談所を日本交通公社と共催する
二、計画外の山行は随時日本山岳會圖書室並集会、山、
會報等にて發表する

◇山行計畫(本部)◇

ウエストン祭

清冽な雪どけ水が萌ゆる新緑の
間をこんこんと流れ 初夏の上高

て別記の如き數パーテイを出しま
す。會員諸氏多數の御参加を希望
いたします。
六月十一日(土)朝八時半迄に松本
驛集合、トラクにて中ノ湯迄、

これより徒歩にて上高地へ
午後二時半——三時ウエストン
レリーフ前に記念會
午後三時半——五時半、講演會
「日本の氷河問題」田中薫氏、そ
の他武田、三田、松方、堀田各
氏の豫定。

七時よりキャンプファイヤー、
(歌合唱辻莊一氏指導)、懇談會
六月十二日(日)朝解散
●登高班(十二日早朝出發)
第一班(徳本峠班)
上高地・徳本峠・島々・松本

第二班(大瀧班)
第一日 上高地—大瀧山—徳澤
第二日 徳澤—上高地—中ノ湯
—松本

第三班(穂高班)(ビッケル、アイ
ゼン等登山用具一切)
第一日 上高地—岳川—奥穂高
—穂高小舎泊

第二日 穂高小舎—潤澤—上高
地

第三日 上高地—松本
第四班(穂高槍走班)(ビッケル
アイゼン等登山用具一切)
第一日 上高地—岳川—奥穂—
穂高小舎泊

第二日 穂高小舎—槍
第三日 槍—中房温泉
第四日 中房温泉—松本

◎費用概算 一二〇〇円—一五〇
〇円(東京より往復として)
注 意

一、十日(金)夜九時卅分新宿發の
準急にて歸れる方は、切符を共
同購入(團體)致します。六月五日

までに會へ申込みこと。

二、松本より中ノ湯までトラク
を利用される方は同じく六月五日
まで申込み。

三、登高班に参加される方は、準
備の都合により五月中に申込のこ
と。

四、上高地には天幕宿泊の準備を
致します。多數の方の御利用を希
望致します。

▽冬山講習会報告△

昭和廿四年三月六日—十一日
場所 後立山八方尾根参加人員五
〇名(盛岡、日立、熊谷、長野縣
新瀉縣、名古屋、大阪、東京、北
海道の各地より参加)

行動概要

三月六日(晴) 全員細野から黒
菱小屋へ入る。夜第一回打合會
七日(風雪) 上級班—主稜線迄
約一時間の地点に雪中露營、第一
班はイグルー、第二班と學生班は
雪洞を用う。中級班—上級班の露
營地点まで登つて引返す。

八日(快晴) 上級班—第三班
と學生班は五龍岳往復雪洞泊り。
第一班は牛首下迄行つて引返し唐
松岳に登り露營撤収。中級班—全
員唐松岳登頂。

九日(終日雪) スキー練習
十日(強風雨) スキー練習、夜
感想及懇談の會
十一日 下山

著者水鳥島小 山の風流使者

本邦山岳界の父、日本山岳會の始祖故水鳥翁の、
斯界は云ふに及ばず、文學美術等の各界に残され
た文化的業績の偉大さは驚歎すべきものでありま
す。今度期待された著者が愈々刊行の運びとなりま
した事は、誠に御慶の至りであります。
特製二部限定A5版上質紙寫眞コロタイプ四
價四〇〇円書留送料三冊迄六五円六冊迄百円
1本社直接の前金申込の方に限り御願します
2期限成べく五月中、配送六月下旬から申込順
並B6判寫眞一價二五〇円書留送料十冊迄六五円
六月上旬刊

近刊 今西錦司氏の本 六月下旬刊

アルプスと人

松方三郎著
價二二〇
頃 有恒著

山行

價二二〇
頃 有恒著

岡書院

電話神田四八七三番

本社の直接委託書店 東京丸善本支店・岩波・栗田大雅堂・三壺
堂・美松・紀國屋・好日山莊・山溪・六花堂・大阪デパート・丸善等
好日山莊、京都丸善・大黒屋・梅澤、神戸大丸、名古屋千山莊、
松本明倫・塚原、戸畑幸山莊、
計り授け思ひます。信用ある店を御紹介下さい。

世話人の半蔵、互る準備にも拘らず、能力不足の爲、色々の不手際はあつたが、リーダー諸氏、参加者及地元各位の御協力により、豫期以上の成果を挙げ得た。南から北までの各地から集まつた人々が同一班に入り、パーティの一員として立派に行動し、各人の能力に應じて、各々何かを得て歸られた。

學生班も一つの試みであつたが九人のリーダー、メンバーが五つの學校の現役及びOBであつたが反省の余地はあるにしても、兎も角一諸に雪の中に生活し、豫定通り五岳岳に登り、一名の落伍者もなかつたのは喜ぶべき事柄であつた。

更にリーダーが全く異なる學校、實業山岳會の出身者であつたが、全く氣を揃えて努力したことは、今後共に會の仕事を分かち合うに足る仲間のグループが擴がつて行くという意味で大きな收穫であつた。日本山岳會が實踐的指導に乗り出して、昨年十一月の富士につぐ第二回の試みであり、この二回の講習會を通して色々のことを知り今後の指針とすることができた。即ちこれらの試みへの参加者は大きく分けて二つの傾向を持つ。

第一は新しい性格をもち、廣く門戸を開いた山岳會の新會員の中には、技術的にはまだ低い、これから修練し熟練した登山者になら

うとする人々がをり、この人々は日本山岳會自体が手を取り足をとつて訓練してくれることを希望してゐられる。

第二の會員と云うのは、各々の屬するクラブで相當高度の登山をして居られるが、それよりも尙高度の技術を日本山岳會に期待して参加する人々である。

これら要求するものゝ異なる人々を一諸に参加して頂いてしかも兩面に亘つて立派な成果を擧げることは難しい。單に技術的な問題な

● 一〇〇回小集會

六月廿三日(木) 午後六時

於圖書室

一、高山植物の話(武田久吉氏)

スライド使用

二、ウェストン祭報告

らば級を分ければよいわけであるが、合宿全体の引き締め方と云ふ問題になると、それだけでは解決しないのであつて、前者に満足と與える程度の講習會では後者が満足せず後者を標準としたのでは、前者に餘りにもきつて感じてついて行く難くなる。

リーダーを集めるのも容易なことではない。本部役員は喜んで熱の下の方の力持努力をせねばならぬが、これだけでは、量的にも能力的にも限度があるので、どうしてもつと廣い範圍に時には、會員外の方にさえ御協力を願はねば

ならない現況であり、自分等の山登りに用いるべき暇と金を會の仕事の爲に割いて頂くのは、いくらその人々の日本登山界に關する大きな愛情に期待するとしても限度がある。特に今回の様な一週間の講習會を半年も前から計画する場合に、リーダーを集めることの難しさは一通りでない。

どうか今後會員諸氏の御助力を切に希望してやまない。そして廿四年度には初心者實踐は本部としてもできるだけのことはすると

しても、なるべくこれを各支部にお願ひし、本部では専ら上級實力者の爲の冬季合宿等に重點を置いて努力して行きたいと考えてゐる。(世話人藤井運平、林和夫)

ルームより

◎支所の便りを下さい
◎山のニュースを歓迎します
◎會への連絡は必ず會員番號を
◎會費は至急に、前年度と今年度別々でも結構です
◎圖書を御覧下さい

圖書室竣工(報告とお願ひ)

去る三月完成した圖書室はその後クラブルームとして會員諸兄の來室増進、集會にも既利用されてゐるのには喜ばしい。資金も別記の通り集まり、本附者の御好意に大いに感謝している。しかし建築費と調度は賄ひ得たが、書棚に硝子戸をつけ、書物を充實するにはまだ少くない資金を要するのである

會員並びに同好諸兄よりこの上とも資金や圖書庫行本、部報、會報等の御寄贈を望望しお願ひする次第である。

東京市内近郊在住の會員各位が機會あるごとにルームを訪れて山を中心としたクラブの楽しいふん圍氣が醸し出されてゆくことを待望してやまない。

寄附發表次號

原主事の就任

本會々員、原全教氏が今回圖書室の落成を機會にその管理責任と共に本會専任主事に就任された。塚本主事の急逝後専任事務担当者

各位のよく承知される通りである。今回同氏の就任を見たことは本會の爲まことに喜ぶ。そこで遠からず事務滞滞の悪評も一掃され昔日の如く會と會員の緊密な繋りも復活されることと期待している。會員各位におかれても進んで原氏と連絡をとられんことを希望する。

圖書室使用規定

一、圖書室の利用は原則として本會々員に限る
一、會員は會員證又はバッヂを呈示されたい
一、會員外の方は會員の紹介又は同伴を要する
一、開室時間は火木土の午後一時より午後七時日曜の午前十時より午後五時迄とする

一、利用者は必ず備付の名簿に署名すること
一、圖書の閲覧については別に定める

一、本會々員の主催する登山團體の會合にルームを利用せんとするときは管理者に申込み總務委員の承認を要する
一、宿泊は本會々員に限り地方在住會員を優先させる
一、宿泊者は當分の内寝具食料の持参を要する。利用者に對しては所定の維持費を申受ける

一、滞在は當分の内三泊を超えないこと
一、宿泊希望者は豫め管理者(千代田區駿河台四ノ六、日本山岳會内、原全教)宛通知すること。

昭和廿四年三月制定

東京都中央区日本橋江戸橋一の七
大阪市北区堂ビル前
日本貯蓄ビル3階

登山用具 スキー用具
専門店

好日山莊

昭和廿四年五月十五日 發行

東京 都千代田區

神田駿河台四ノ六

發行所 社團 日本山岳會

電話 二〇八九番 日本體育協會
三二二四番

東京都千代田區飯田町一ノ二二
印刷所 都印刷所